



音楽運動



日本音楽協議会 〒101-0061 東京都千代田区神田三崎町3丁目10-15 富士ビル505号室 発行人 松本敏之
TEL03-3221-1821 FAX 03-6369-3057 URL <http://nichionkyou.org> Email nichion@yomogi.or.jp

ピースフェアで演奏し好評 Let's sing a song



千葉市平和のための戦争展「第11回ピースフェア2024 in 千葉」が6月19日から23日まで千葉市Qiball(きぼーる)にて開催されました。

合唱団ミール(瓦井、中村、小笠原、鈴木、松崎、長島、田中、吉原、根本)は22日(土)15時30分からステージプログラムとして参加しました。

前回までは日程の調整がつかずに瓦井さんがソロで参加するという状況でしたが、今年3月の千葉県支部総会でピースフェアには合唱団ミールとして参加することを目標にし、土日の出演希望をなるべく早く出すことで今回は前述の9人で発表することができました。

当日は「おいでここへ」「長崎の鐘」「折りづる」「世界とともに」、瓦井さんのソロで「平和に暮らそう」と「ジュゴンがすむ海」「あたりまえの地球」「戦争はダメだ」、最後は笠木博逸さん作で瓦井さん編曲の「Let's sing a song」にしよう一週間前の直前練習で決めましたが、平和を訴えるうた8曲のあとに前向きで応援歌でもある「Let's sing a song」を最後にもってきたことで会場が盛り上がり、一般の通行もある会場の吹き抜けで3階から聴いていたと思われる親子おふたりがノリノリで手拍子していたことが印象に残り、千葉県支部として練習と議論を継続してきて良かったと思いました。

千葉県支部としてはまだ総括していませんが参加するにあたりもっと早い選曲と、本番を意識した練習をおこなわなければならないと思いました。

(根本賢治)



YouTubeは右のQRコードから



小川さん 瀬崎さん 松浦さん

THE STAND-UPの結成15周年を迎えた、THE STAND-UP(私鉄・東武労組)の記念コンサートが、6月8日午後、埼玉県加須市の市民プラザかそにて開催された。アンコール曲も含め、数ある持ち歌から厳選したという定番曲、新曲、再アレンジした全22曲を、小川さんの安定感抜群のベイスと、作詞作曲担当の松浦さんの吉田拓郎を彷彿させるギターとブルースハープ、瀬崎さんの力強いボーカル、という3人の個性光る編成に、私鉄の仲間

結成15周年を迎えた、THE STAND-UP(私鉄・東武労組)の記念コンサートが、6月8日午後、埼玉県加須市の市民プラザかそにて開催された。アンコール曲も含め、数ある持ち歌から厳選したという定番曲、新曲、再アレンジした全22曲を、小川さんの安定感抜群のベイスと、作詞作曲担当の松浦さんの吉田拓郎を彷彿させるギターとブルースハープ、瀬崎さんの力強いボーカル、という3人の個性光る編成に、私鉄の仲間

がソロソロサクサクと加わる場面もあり、その味わい深い演奏と、歌に込められた深い思想は、熱量となって会場を熱く沸かした。2時間は瞬間に過ぎてしまった。もっともっと聴いていたいと思った。

開催された「第30回はたらくもの音楽祭」に出演いただく、たちまち日音協界隈にも名が広まった。その後、故人となった矢島さんの代わりに東武鉄道労働者の小川さんが加わり、THE STAND-UPとして座布団から立ち上がって演奏を始めたのだ。

そして歩み続けて15年。次の1歩に期待が湧く!そんなコンサートだった。

※THE STAND-UPのYouTubeチャンネルがありません!歌を聴いたことがない方も、是非一度、のぞいてみてください。

(坂口美日)

沖縄祭典に向けて奮起の大宴会 FMカンパニー合宿開催!

梅雨のない北海道の初夏を満喫できる時期となった6月14日、一泊二日の日程でFMカンパニー合宿を開催した。皆が集まるのはメーデー以来だが、今回は遠く長野から「唯一無二ゆ」の塚本夫妻も駆けつけ総勢10名の参加となった。

札幌の隣の江別市にあるペンション優は、ヤギ小屋もあり「メーデー」と可愛い3匹の子ヤギがいる牧歌的な雰囲気、近所に家屋もなく夜中に騒いでも問題ない。天気も良かったことから、15時に到着してすぐに第1部の庭でのバーベキューをスタートした。「飲み会から始まるんかい!」という声も聞こえてきそうだが、この場で合宿での獲得目標や状況報告や意見交換がなされる貴重な時間であることを理解し



全国行脚を展開中の「唯一無二ゆ」の二人。東北北、九州、北信越に続き、ついに北海道に上陸。次はどこに現れるか!? お呼びがあればどこにでも? 乞うご期待!!

てほしい。っていうか、長野からの客人への振る舞いとして北海道のジングスカンを味わってもらうことが一番と考えた結果でもある。

さて夕食後は第2部のメイソンの創作曲の発表である。今回は五名から計八曲。沖縄祭典での発表曲を選考する、という目標であったが果たしてその成果は? 今後手直しや追加作業をすすめて完成にたどり着く予定なので乞うご期待。

酔いも進んだ処で第3部の「酔いどれコンサート」に突入。まずはブービーバンドが前座でステージを温め、次にゲストである「唯一無二ゆ」の登場。二人の演奏は文字通り唯一無二と思わせるもので、達者な演奏とステージパフォーマンスの素晴らしさに一同が感心させられた。その後は村雲さんの



「なんもかんも忘れて」晴ればれとした皆さんです。

「クサヤソング」やら佐藤会長、沼前さんの歌、佐藤満さんのギター演奏と続き、以降は歌いたい人が好き勝手に演奏する事になった。

さて夜も更けて長老の的場さんが就寝したのを皮切りに一人、二人と布団の中へ。そうなる都合名物「なんもかんもバンド」の登場である。このバンドは眠りについた者の部屋に押し入って耳元で「なんもかんも忘れてよー」と騒ぎ建てる伝説行事だ。(FMカンパニーのCDにも収録されている)この甚だ犯罪とも言える迷惑な

行為。常に加害者の立場であった私が迂闊にも寝てしまい被害者の側に回ってしまった。よく見ると長野の塚本夫妻まで一緒になってるじゃないの。くやしーい!(本当は奴らにするはずだったのに)

ともあれ、飲みまくり、歌いまくった合宿は無事に終了し、9月の沖縄祭典に向けた決意を固めたFMカンパニーであった。

最後に唯一無二ゆさん、ありがとう。そして長野の大沢さん、的場さんが会いたがってますよー。(桑野 功)

役割分担して取り組もう

新潟県支部が総会開催

北信越ブロック合宿の会場である、柏崎市文化会館アルフォーにて、合宿終了後の6月2日(日)に開催しました。

新会員1名を迎え、会員12名のうち、8名が出席しました。

松本会長には、ブロック合宿初日の6月1日(土)にご挨拶をいただきました。

板井支部長の挨拶の後、高野さんを議長に選出し、山本事務局長より、活動報告と決算案、活動方針、予算案が提起されました。また、活動にあまり参加できていない会員の方の近況報告もされました。

今年度は、これまで通りの活動と合わせて、①県支部と連携をしている自治労新潟県本部音楽運動推進委員会の体制確立に取り組むこと、②昨年の第54回はたらくものの音楽祭でつながった仲間との交流を継続し、日音協会員拡大の土壌作りに向け、県職労と仲間たちのコンサート(11月予定)に協力すること、③まずは身近な労働組合や仲間働きかけるためのチラシや活動紹介等の教宣物を作成し、カンパ金と会員の増を目指すこと、に力を入れて取り組む



役員体制は継続となり、無事、総会は終了しました。人数の多くない支部ですし、日頃より、定例会やライングループなどで、情報交換はしておりますが、総会で改めて、これからの活動について話し合う良い機会となりました。(山田由紀子)

全国アコニストのつどい2024

2024年第5回「全国アコニストのつどい」が下記の要綱で開催されます。自らが「音楽する」ことに重点を置き一年間の活動を見直し、交流をする中でアコニストとしてより発展していくためのキッカケとなる「ドック」のようなつどいを目指して。

- とき 2024年9/6(金)～9/8(日)
- ところ さつき会館(静岡県伊東市湯川)
- 費用 42,000円(参加費17,000円、宿泊費25,000円、交流会費含む)2泊5食です
- 講師 窪田聡氏
- 主なカリキュラム
 - 9/6 自選曲演奏&公開レッスン 交流会①
 - 9/7
 - ・合奏とベースソロに挑戦
 - 「2台のアコのためのエチュード」
 - ・Beer Song に挑戦
 - 「ハイダヴァ・レントラー」
 - 「ミュンヘンのホーフプロイ・ハウス」
 - ・基本チェック
 - ペローイング・指力 etc.
 - ・個人練習
 - 9/8 課題曲演奏と講座復習
- 参加申込書締め切りは7月31日(水)必着
- 詳細は実行委員会事務局にお問い合わせ願います
- 問い合わせ先(岩藤)
 - TEL&FAX 043-235-2580
 - E-mail n.iwatou@gmail.com
 - iwatou@mar.email.ne.jp

自治研講演会でアコ演奏



去る5月25日(土)富山市「オークスカルパークホテル富山」において、「富山県地方自治研究センター」の設立50周年記念事業として講演会とレセプションが開催されました。

この記念レセプションのアトラクションにアコーディオン演奏依頼があり、アコーディオン研究会としてアコ合奏「こきりこの唄」「アリア」やデュエット(二重奏)、独奏や歌など7曲のプログラムで演奏しました。

(磯野友一)

「南風(ふえーぬかじ)」⑧
革新共闘からオール沖縄へ、そして…

沖縄県支部長 平良昌史

1945年、人間が人間であることをなくした悲惨な沖縄戦を体験し、戦後、日本から切り捨てられた沖縄は、米軍の銃剣とブルドーザーによる土地の強奪、米兵による女性へのレイプ、殺人、ジェット戦闘機の墜落事故などの人権侵害に対して、米軍政の絶対権力で沖縄の自治を力で封じ込められた怒りが、沖縄人民は団結して島ぐるみ闘争を闘い、復帰闘争に発展した。政治的には、社会党・沖縄社会大衆党・共産党に公明党が加わった革新共闘は、復帰前1968年の三大選挙(行政主席選挙、立法院議員選挙、那覇市長選挙)に勝利し、1990年代の大田昌秀知事まで続いた。しかし、公明党が自民党と連携した2000年代は、保守(自公)勢力が圧倒し、反自公共闘(革新勢力と民主党、国民新党)で闘ったが、1対1の首長選挙や国政選挙はなかなか勝てなくなった。そのため、無党派層の圧倒的な支持が得られる候補者か保守勢力からも支持が得られる候補者を選出する必要があった。

2013年1月28日に革新・保守の枠を超えたオール沖縄で辺野古新基地建設反対とオスプレイ配備反対などを訴えた「建白書」を提出したが、政府に無視され、県民代表はヘイトスピーチを浴びせられ、日米安保を容認している人でさえ、沖縄にだけ基地を押し付ける現状は、構造的沖縄差別と気づいた。当時、那覇市長であった保守政治家 翁長雄志氏は、自分を支える那覇市議や企業とともに、オール沖縄共闘を実現し、翁長知事を誕生させ、安倍政権と対峙した。

翁長氏が亡くなった後、玉城デニー知事にバトンタッチされたものの、オール沖縄から保守勢力の離反があり、今回の県議選挙においては、自民党裏金問題があるなかでも、県政野党・中道勢力が大勝し、厳しい現実が現れた。沖縄県民は、オール沖縄に代わる新たな共闘を模索しながら、「命どう宝」で民族の誇りを守りぬぎ、今後も闘いつづける。



復活!はたらくものの音楽祭ステージあれこれ話し第10弾

■今年の舞台配置図の留意点

①今年から、Windows用とMac用の舞台配置図ファイルをお送りしています。パソコンでコピー&ペーストで記入しようと考えている方は、ご自分のパソコンに合わせて、ファイル名末尾の(Windows用)または(Mac用)のどちらかを選んでお使いになると、作成がよりスムーズになると思います。

②これまでの舞台配置図上にアンプを記載していましたが今年から、アンプを使用する演奏の場合は、舞台配置図にアンプ記号を書き入れ、使用機材表に○を記入いただくようにしました。

③舞台配置図2ページ目の中段に以下の選択文があります。

●ボコーラルマイクを使用せず、離れたマイクでの集音を希望する・しない

これは、エレキ、ベースなどの電子楽器、ドラムなどのような大きな音が出る楽器を使用する演奏、また、伴奏楽器よりも声量が小さくなりがちグループは不向きです。逆に、シンプルな伴奏楽器(ピアノ、アコーディオン、キーボード、エレアコギターなど)と伴奏に負けない声量のあるグループは、練習時と同じような生音に近い状態での発表が可能となります。ただし、このマイク使用を希望する場合はリハーサルは必ず受けていただきたいので、メンバーと良く相談して選択してください。また、このマイク使用については、当日の使用希望は、お受けできません。

■今年の音楽祭のステージについて

どんなステージなのか気になっている方、以下のYouTube URLより、雰囲気を見ることができますのでご参照ください。

<https://youtu.be/n-UykoCd9kE?si=o5Ov7Y9B6usGXVCA>

(坂口美日)



【左・上写真】2015年5・17止めよう辺野古新基地建設県民大会 辺野古ゲート前で、辺野古海上で阻止行動をしている仲間たちと一緒に、沖音協・日音協のメンバーもアトラクションに出演しました。

一人ひとりがつながる「大きな橋」をかけよう

久慈歌声サークルの4人（八屋ひろ子・佐々木かな子・佐藤幸子・新毛郁子）で、昨年12月に「うたごえ喫茶」を立ち上げました。3ヶ月に1回のペースで開催しています。毎回90分の内容となっています。

日音協の曲を知ってもらおうキッカケになればと思い、最後に「大きな橋」をハモリながら歌いました。お客様の中にそれを大変気に入ってくれた方がいて、自ら日音協に連絡し歌集を購入したのだそうです。チャンスがあれば歌い、誰かの心にヒットすることを願いながら、この活動について広めていくのが大事だと、再認識させられる出来事でした。

その時のお客様と新毛で二戸市の「うたごえ喫茶」を一緒に企画し、先日第1回目を終えたばかりです。二戸でも今後、同様に歌っていくつもりです。

地元久慈市の合唱団でも「大きな橋」をレパートリーに加えてくれていて、これは八屋さんの働きかけによるものです。このようにして少しずつでもいいから、日音協の曲の良さを浸透させていきたいと思っています。

ちなみに、演奏曲は、前半は童謡・唱歌・ナツメロ・フォークなど8曲を、電子ピアノの伴奏で歌っています。具体的には「牧場の朝」「みかんの花咲く丘」「夏は来ぬ」「ふじ山」「涙そうそう」「上を向いて歩こう」「高校三年生」「翼をください」などです。

後半は歌集の中からリクエストを募り歌っていますが、なかなか全てには応えできていません。

（新毛郁子）



岩手県支部が総会開催

6月8日、岩手県支部は、日音協副会長の佐藤康弘さんを来賓として迎え、総会を開催しました。

色々な制約がある中、岩手県支部も活動の制限や今までの歌う場面がなくなるということがあり、まだまだ以前の活動を取り戻したとは言えない状況でした。そんな中で「はたらくものの命と健康を考える会」(6/29)では長きにわたった裁判闘争の流れを構成詩として発表することができました。その中の3曲「勝

訴の日」「始まりの日」「春よ」の作曲者である秋田の桜庭さんに協力をいただき、ギター伴奏で発表しました。いつ歌ってもいつ語ってもその時のことを思い出し、胸が熱くなる構成詩です。音楽の力を感ずる場面でした。

コロナによって、音楽場面も無しになるという状態が続きました。それが数年続くと「歌うということ」があったことがわすれられてしまい、要請もされなくなってしまうているのではないかと思う場面があり、こちらから「歌わせてほしい。」という、主催者はすんなりOKしてくれませんでした。これらのことから待ちではなく、自分たちが伝えた

ことを積極的に働きかけていくことが必要だということを確認できました。

現役を卒業する会員が増え、職場でのつながりを作るという点ではマイナスイメージがないけれど、時間に余裕が出来、平日の活動などもできるなどプラスにとらえることができるのではないかと。できることは何か新しいことへ一歩踏み出すことができるのではないかと考えました。

総会で顔を見て話すことは、やっぱりいいなあと思っただけではないと思えます。みんなと集まることが活動をとくさん企画し、元気に楽しくがんばりたいと思っています。

（佐藤幸子）

コロナ禍を乗り越え、5年ぶりに開催



2024北信越ブロック合宿は、6月1日・2日の2日間、富山3人、長野3人、新潟8人、ブロック外から常連参加の青森・甲斐さん、ゲストの岩手・三田地さん、父娘、松本会長を含む18人の参加により、柏崎市文化会館アルフォーレ（新潟県柏崎市）で5年ぶりに開催しました。

1日目は、新潟県支部の歓迎のシンクアウトで開始。合宿幹事県と中央幹事会を代表して、新潟県支部・板井支部長と松本会長からのあいさつを受け、コンサートに移りました。

新潟、富山、長野、ゲストの三田地昇二さん、三田地望美さんの順で演奏、それぞれの個性が発揮され、お互いにより刺激になりました。

今回のブロック合宿で三田地さんをゲストに迎えたのは、塚本さん夫妻が東北ブロック合宿に招かれた際、望美さんから「演奏の場が少ない」と言われたのがきっかけでした。お二人とも自分の曲を「変な曲」と表現されていましたが、ご謙遜、ご謙遜。怒ろっぜ！闘おうぜ！という歌ではありませんが、自分の気持ちを表現した、他の人には真似できないとても素敵な曲ばかりでした。

夕方からは、地元・柏崎在住の竹内さん御用達のスナック・ミュージックハウス「つどい」を借り切って大交流会。時間の関係上、日中のコンサートで演奏できなかった方を中心に、得意の演奏を披露しました。参加者が持ち寄った美味しいお酒や食べ物も楽しい宴の「アクセント」になりました。

2日目は、各県等の活動や沖縄音楽祭への準備状況を報告し合い、沖縄での再会とお互いの精進を約束して閉会しました。

（山本英一）

水道橋 だより

歌の力が物語るもの 131

茉萸坂うた行動 6/14 (513回) 報告 長島

【参加者】守屋さん、周平さん、周平さんの友人、鈴木さん、イサさん、達哉さん、森さん、長島 計8名

茉萸坂では先に到着した森さん、達哉さん、イサさんが横断幕を広げ、鈴木さんがマイクのセツトをした。

国会議事堂前で下車して茉萸坂に向かった。階段を上がる時には官邸前のコールがいつもより激しく聞かれる。「ネタ二ヤフ首相は責任をとれ」という言葉が聞えてきた。世界のどこかの国の出来事ではない。日本で、今、現在、抗議行動が行なわれている。茉萸坂に向かう途中、妙法寺さんがいた。毎週活動が続いている。私たちの歌がないときも継続している。頭が下がる。

▼日音協は6月29日第8回幹事会を開催しました。先月に引き続き月末の会議となり、毎月1日配信の音楽運動編集部とすれば、大変ととらえるか!?編集中原稿を幹事会にかけて励みとするか!!物忘れも多くなり、目もカスレ気味で文字拡大して編集しています。

▼ちなみに前日の28日は青森県支部の定例の練習会があり、青森市まで行って帰ってきました。先月の練習会には参加できなかったのですが、お客さんが来たそうです。▼お客さんの感想を聞くと、甲屋さんの演奏の評判がよくて、母性本能をくすぐるというか受け入れられていたそうです。▼ヤスのガナリオンダはマイネベな。ダメだべな(Sさん)。▼でも、それが個性だから。「百姓のうた」とか河島英五のうたとか、ヤスさんはやっぱりそっちの歌がいいよな(Kさん)。と慰められた。▼そうだよな。いろいろチャレンジしたけれど、原点?に戻るかな。(佐藤)

長島は今日歌いたい歌を最初にリクエスト。『反原発うた』の故笠木さんが作ってくれた替え歌。もう一曲は上野さんが作った『茉萸坂の祈り』。楽譜を見てイメージをつかんだ周平さんがトランペットを吹いてくれた。曲が豊かなものになる。この曲たちができたときは数年前だった。『安倍政権はやめれ』『時は流れ10年』とあり、歌詞を直さなければ。あの事故から13年も

たつたのに、原子力緊急事態宣言は発令されたままで、多くの人がそんなこと気にもしないような日常だ。ローマ法王に会いに行ったら自主避難をしている少年は、避難当時は8歳だったが今では21歳となり、裁判で意見陳述をしたり、父親に代わり集会で発言している。その父は、10年前から始まっていたであろう癌が発見され、最近手術をした。いわき市から避難している人にごん検診の仕組みがあれば早期発見ができたかもしれない。避難生活を守る会の裁判が6月13日予定だったが被告の闘病のこともあり7月18日に延期されている。

森さんが調布の駅前で「ガザでのジェノサイドに抗議するスタンディング」に参加したのだそうだ。バスロータリーの近くだったので、バスやタクシー待ちの列の中には、話に聞き入る人もいたという。国連は何の為にあるの?何を求めるの?とにかく即刻攻撃は止めて!との声は世界中で上がっているのに、戦闘は終わりが見えない。周平さんのところにタンバリンを持った方が来て話してくれた。小田原から来たという。外務省に申し入れをし、いろいろ質問をした。この国のすむ方向は間違っている。そんな思いをいっしょに歌ってくれた。

途中から鼻笛という不思議なものを鼻に当ててメロディを奏でてくれた。『大きな橋』『ふるさと沖縄』『月桃』『民衆の歌』『声よ集まれ』歌となれ』『ケサラ』『D.O! 廃炉』。6月17日の月曜日には「司法の劣化を許さない6・17最高裁共同行動 原発事故は国の責任 6・17判決を正す」最高裁判所を取り囲むヒューマンチェーンが取り組まれる。都合がつけば駆けつけたところだが、行動が目白押し。健康に気をつけて息長く続ける。

政治資金規正法の抜け穴報道でマスコミは忙しいようだ、その陰で変な法律が次々に国会を通過しつつある▼「食料有事法」。食料危機が予測される場合に、政府が農家や販売業者に対し米や小麦などの生産・販売計画を提出させ、その変更を指示し、従わない者の氏名を公表したり罰金を課すという、1942年成立の食糧管理法にも似た主要穀物の国家管理のための法律である。農民の間からも「国家権力による強制で農家の自由を奪つものだ」との声が強い▼「重要経済安保情報保護・活用法」。2013年成立の「特定機密保護法」では機密保護の対象が外交・防衛分野に限られていたのに対し、兵器などの国際共同開発、インフラなどへのサイバー攻撃といった経済分野を対象に組み込み、関わる者の身辺調査の権限を国に与えるものとなっている▼6月19日に成立した「地方自治法一部改正」は、国民の安全に重大な影響を及ぼす事態が発生するおそれがある場合に、国が自治体に指示を出す権限を認められたもので、2000年の「地方分権一括法」で明治以来の国と地方の上下関係を否定し「対等協力」の理念を打ち立てたのを否定するもの▼安全保障最優先、戦争を可能とする国権強化策が進められている、とは考えすぎか。

どん行

(180)

飯島貞親